

特集：持続可能な学習教育支援システムの開発と運用

講義の効率的運用を支援する香川大学型 IT 教卓システム

——開発運用サイクルに基づいた IT 教卓システムの開発実践——

八重樫 理人*, 寺尾 徹*, 林 敏浩*, 村井 礼*, 岩城 暁大*, 裏 和宏*,
今井 慈郎*, 堀 幸雄*, 末廣 紀史*, 大塚 輝**, 最所 圭三*

ICT-based Teaching Support Desk System (IT kyotaku system) for Efficient Management of University Lectures

— An Actual Practice According to the Cycle of Development and Operations —

Rihito YAEGASHI*, Toru TERAOKA*, Toshihiro HAYASHI*, Hiroshi MURAI*, Akihiro IWAKI*,
Kazuhiro URA*, Yoshiro IMAI*, Yukio HORI*, Norifumi SUEHIRO*, Teru OHTUKA**,
Keizo SAISHO*

There are many reports about quality improvement of education by using ICT devices at educational institutions. ICT devices were introduced at Kagawa University. However, there are many problems with their operations. In order to solve them, the authors have developed the ICT-based Teaching Support Desk System. It has been carried out according to the Cycle of Development and Operations. The Cycle of Development and Operations consists of Analysis, Design, Development, and Operation. This paper describes the outline of the ICT-based Teaching Support Desk System, and the Cycle of Development and Operations. An actual practice according to the Cycle of Development and Operations set out concrete steps for solving problems which many educational institutions face.

キーワード：教育における ICT 活用，教育支援システム，IT 教卓，教員／スタッフの負担軽減，開発運用サイクル

1. はじめに

情報国家戦略「i-Japan2015」⁽¹⁾は、「デジタル教育の推進とデジタル活用人材の育成・活用」が関係府省・機関が一体となって取り組みを加速すべき重点プロジェクトの一つであると位置づけており、「デジタル活用人材の裾野を広げ、教育の質を高めるデジタル教育及びそのための環境整備を実施する。」と述べている。このような背景を踏まえ、教育機関において情報通信機器や情報システム（以下、本論文では ICT 機器と呼ぶ）を活用し、教育の質的向上を目指した取り

組みが数多く報告されている⁽²⁾。しかし、情報通信技術の急速な発展と普及に伴い、教育機関が導入する ICT 機器の数は爆発的に増え、その運用も教育機関においては大きな負担となっている^{(3)~(5)}。教育機関においては、教育の質的向上に寄与する機能を持つ ICT 機器を適切に導入するだけでなく、導入した ICT 機器運用の効率化やコスト削減などさまざまな課題の解決が求められている。

香川大学では、これまで教室の用途や設置場所の状況に応じて、必要な ICT 機器を順次導入してきた。一般的に教室は、受講を希望する学生の人数に応じて決

* 香川大学 (Kagawa University)

** 株式会社内田洋行 (Uchida YOKO CO., LTD.)

受付日：2014 年 4 月 24 日；再受付日：2014 年 7 月 18 日；採録日：2014 年 8 月 29 日